

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ

第1部 学習指導要領等改訂の基本的な方向性

5. 何ができるようになるか ―育成を目指す資質・能力―

### （言語能力の育成）

- 子供は、乳幼児期から身近な人との関わりや生活の中で言葉を獲得していき、発達段階に応じた適切な環境の中で、言語を通じて新たな情報を得たり、思考・判断・表現したり、他者と関わったりする力を獲得していく。教科書や教員の説明、様々な資料等から新たな知識を得たり、事象を観察して必要な情報を取り出したり、自分の考えをまとめたり、友達の思いを受け止めながら自分の思いを伝えたり、学級で目的を共有して協働したりすることができるのも、言葉の役割に負うところが大きい。
- このように、言葉は、学校という場において子供が行う学習活動を支える重要な役割を果たすものであり、全ての教科等における資質・能力の育成や学習の基盤となるものである。したがって、言語能力の向上は、学校における学びの質や、教育課程全体における資質・能力の育成の在り方に関わる課題であり、前述1.にあるように、文章で表された情報の的確な理解に課題があると指摘される中、ますます重視していく必要がある。
- こうした言語能力の具体的な内容は、別紙2-1のとおり整理できる。特に、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」を整理するに当たっては、「創造的・論理的思考」、「感性・情緒」、「他者とのコミュニケーション」の言語能力の三つの側面から言語能力を構成する資質・能力を捉えている。
- このように整理された資質・能力を、それが働く過程、つまり、私たちが認識した情報を基に思考し、思考したものを表現していく過程に沿って整理すると、別紙2-2のとおりとなる。①テキスト（情報）を理解するための力が「認識から思考へ」の過程の中で、②文章や発話により表現するための力が「思考から表現へ」の過程の中で働いている。
- 言語能力は、こうした言語能力が働く過程を、発達段階に応じた適切な言語活動を通じて繰り返すことによって育まれる。言語活動については、現行の学習指導要領の下、全ての教科等において重視し、その充実を図ってきたところであるが、今後、全ての教科等の学習の基盤である言語能力を向上させる観点から、より一層の充実を図ることが必要不可欠である。
- 特に言葉を直接の学習対象とする国語教育及び外国語教育の果たすべき役割は極めて大きい。言語能力を構成する資質・能力やそれらが働く過程、育

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ

第1部 学習指導要領等改訂の基本的な方向性

5. 何ができるようになるか ―育成を目指す資質・能力―

成の在り方を踏まえながら、国語教育及び外国語教育それぞれにおいて、発達の段階に応じて育成を目指す資質・能力を明確にし、言語活動を通じた改善・充実を図ることが重要である。

- 加えて、国語教育と外国語教育は、学習の対象となる言語は異なるが、ともに言語能力の向上を目指すものであるため、共通する指導内容や指導方法を扱う場面がある。別紙2－3のとおり、学習指導要領等に示す指導内容を適切に連携させたり、各学校において指導内容や指導方法等を効果的に連携させたりすることによって、外国語教育を通じて国語の特徴に気付いたり、国語教育を通じて外国語の特徴に気付いたりするなど、言葉の働きや仕組みなどの言語としての共通性や固有の特徴への気づきを促すことを通じて相乗効果を生み出し、言語能力の効果的な育成につなげていくことが重要である。
- また、読書は、多くの語彙や多様な表現を通して様々な世界に触れ、これを疑似的に体験したり知識を獲得したりして、新たな考え方に出会うことを可能にする。このため、言語能力を向上させる重要な活動の一つとして、各学校段階において、読書活動の充実を図っていくことが必要である。
- こうした改善・充実を踏まえ、学習評価や高等学校・大学の入学者選抜においても、言語活動を通じて身に付いた資質・能力を評価していくようにすることが重要である。

## 言語能力を構成する資質・能力

- 言語能力を構成する資質・能力を、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理をすると、以下のようになると考えられる。

### (知識・技能)

言葉の働きや役割に関する理解、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解、既有知識（教科に関する知識、一般常識、社会的規範等）に関する理解が挙げられる。

特に、「言葉の働きや役割に関する理解」は、自分が用いる言葉に対するメタ認知に関わることであり、言語能力を向上する上で重要な要素である。

### (思考力・判断力・表現力等)

テキスト<sup>1</sup>（情報）を理解したり、文章や発話により表現したりするための力として、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力、言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力、言葉を通じて伝え合う力、構成・表現形式を評価する力、考えを形成し深める力が挙げられる。

### (学びに向かう力・人間性等)

言葉を通じて、社会や文化を創造しようとする態度、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度、集団としての考えを発展・深化させようとする態度、心を豊かにしようとする態度、自己や他者を尊重しようとする態度、自分の感情をコントロールして学びに向かう態度、言語文化の担い手としての自覚が挙げられる。

---

<sup>1</sup> 本審議のまとめにおいては、文章、及び、文章になっていない断片的な言葉、言葉が含まれる図表などの文章以外の情報も含めて「テキスト（情報）」と記載する。

# 言語能力を構成する資質・能力

## 知識・技能

## 思考力・判断力・表現力等

## 学びに向かう力・人間性等

- 言葉の働きや役割に関する理解
- 言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け
  - ・音声、話し言葉
  - ・文字、書き言葉
  - ・言葉の位相(地域や世代、相手や場面等による言葉の違いや変容)
- ㊦語、語句、語彙
  - ・文の成分、文の構成
  - ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係) など
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
  - ・話し方、書き方、表現の工夫
  - ・聞き方、読み方 など
- 言語文化に関する理解
- 既有知識(教科に関する知識、一般常識、社会的規範等)に関する理解

テキスト(情報)を理解したり、文章や発話により表現したりするための力

### 【創造的・論理的思考の側面】

- 情報を多面的・多角的に精査し、構造化する力
  - ・推論及び既有知識・経験による内容の補足、精緻化
  - ・論理(情報と情報の関係性:共通—相違、原因—結果、具体—抽象等)の吟味・構築
  - ・妥当性、信頼性等の吟味
- 構成・表現形式を評価する力

### 【感性・情緒の側面】

- 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
- 構成・表現形式を評価する力

### 【他者とのコミュニケーションの側面】

- 言葉を通じて伝え合う力
  - ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
  - ・自分の意思や主張の伝達
  - ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り
- 構成・表現形式を評価する力

### 《考えの形成・深化》

- 考えを形成し深める力
  - ・情報を編集・操作する力
  - ・新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
  - ・新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

- ・言葉が持つ曖昧性や、表現による受け取り方の違いを認識した上で、言葉が持つ力を信頼し、言葉によって困難を克服し、言葉を通して社会や文化を創造しようとする態度
- ・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、考えを伝え合うことで、集団としての考えを発展・深化させようとする態度
- ・様々な事象に触れたり体験したりして感じたことを言葉にすることで自覚するとともに、それらの言葉を互いに交流させることを通じて、心を豊かにしようとする態度
- ・言葉を通じて積極的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者を理解するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度
- ・自分の感情をコントロールして学びに向かう態度
- ・歴史の中で創造され、継承されてきた言語文化の担い手としての自覚

## 言語能力を構成する資質・能力が働く過程

- 言語能力を構成する資質・能力は、①テキスト（情報）を理解するための力が「認識から思考へ」という過程の中で、②文章や発話により表現するための力が「思考から表現へ」という過程の中で働いている。

## ア) テキスト（情報）を理解するための力

- ・テキスト（情報）の構造と内容を把握し、精査・解釈し、考えを形成する力である。
- ・「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」のそれぞれの段階において、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」に整理された資質・能力が働いている。

特に、既有知識・経験によってテキストにない内容を補足・精緻化するなどして推論することや、共通－相違、原因－結果、具体－抽象等の情報と情報の関係性（論理）を吟味・構築すること、妥当性、信頼性等を吟味することなど、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力は、テキストの意味を、字句通りというだけでなく理解するために重要な能力である。

## イ) 文章や発話により表現するための力

- ・表現するテーマ・内容、構成・表現形式を検討しながら、考えを形成・深化させ、文章や発話によって表現する力である。
- ・「テーマ・内容の検討」、「構成・表現形式の検討」、「考えの形成・深化」、「表現」のそれぞれの段階において、「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力等」に整理された資質・能力が働いている。
- ・特に、表現した後、又は、表現しながら、考えを形成・深化させ、より良い表現にするために、文章を推敲したり、発話を調整したりする力が重要である。

# 言語能力を構成する資質・能力が働く過程のイメージ

## 認識から思考へ

構造と内容の把握

精査・解釈

考えの形成

テキスト（情報）の理解

<知識・技能>

- 言葉の働きや役割に関する理解
- 日本語や外国語の特徴やきまりに関する理解と使い分け
  - ・音声、話し言葉
  - ・文字、書き言葉
  - ・言語の位相(地域や世代、相手や場面等)による言葉の違いや変容)
  - ・語、語句、語彙
  - ・文の成分、文の構成
  - ・文章の構造(文と文の関係、段落、段落と文章の関係)
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
  - ・話し方、書き方、表現の工夫
  - ・聞き方、読み方
- 言語文化に関する理解
- 既有知識(教科に関する知識、一般常識、社会的規範等)に関する理解

<思考力・判断力・表現力等>

- 【創造的・論理的思考の側面】
  - 情報を多面的・多角的に精査し構造化する力
    - ・推論及び既有知識による内容の補足、精緻化
    - ・論理(情報と情報の関係性：共通-相違、原因-結果、具体-抽象等)の吟味・構築
    - ・妥当性、信頼性等の吟味
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【感性・情緒の側面】
  - 言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力
  - 構成・表現形式を評価する力
- 【他者とのコミュニケーションの側面】
  - 言葉を通じて伝え合う力
    - ・相手との関係や目的、場面、文脈、状況等の理解
    - ・自分の意思や主張の伝達
    - ・相手の心の想像、意図や感情の読み取り
  - 構成・表現形式を評価する力

<思考力・判断力・表現力等>

- 考えを形成し深める力
  - ・情報を編集・操作する力
  - ・新しい情報を、既に持っている知識や経験・感情に統合し構造化する力
  - ・新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力

表現

構成・表現形式の検討

テーマ・内容の検討

考えの形成・深化

推敲

- 文章の推敲
  - ・構成・表現形式の修正
  - ・内容の再検討、考えの再整理
- 発話の調整
  - ・自分の思いや考えを伝えるための展開
  - ・相手の立場や視点を考慮した展開

## 思考から表現へ

文章や発話による表現

<学びに向かう力・人間性等>

- ・言葉を通じて、
  - ・社会や文化を創造しようとする態度
  - ・自分のものの方や考え方を広げ深めようとする態度、
  - ・集団としての考えを発展・深化させようとする態度、
  - ・心を豊かにしようとする態度

- ・自己や他者を尊重しようとする態度
- ・自分の感情をコントロールして学びに向かう態度
- ・言語文化の担い手としての自覚